

健康増進・予防領域 DATA

保健医療福祉の制度に精通し、地域において多職種と連携協働しながら健康社会を支え、障害の予防や改善、生活の再構築、そして地域社会における自立生活の安定化、QOL(生活の質)の維持・向上を目指した実践の有効性を探求する研究を行うとともに、高度な専門性が求められる職業を担うために必要な能力を培います。



KEYWORD

臨床看護学、がん看護学、生涯発達看護学、精神看護学など

CHECK

多職種・他職种的な視点が獲得できる科目群

科目群の多くは看護師を対象としていますが、理学療法士の視点からの内容が学べる科目もあります。チーム医療の有用性が普遍的になった昨今において、「多」職種および「他」職種の視点は重要です。他職種の視点は共通科目外においても開講され、チーム医療で活躍できるマインドを養成します。

CHECK

実習やフィールドワーク、ディスカッションを含めたライブ感あふれる講義

専門科目では専門書や学術論文の精読や要約レベルで終わることが無いように、フィールドワークやディスカッションという教育方法を通して恒常的に実施しています。また、がん看護学・感染看護学では実習も行われ、先端的な知識技術の習得や専門看護師として必要な能力の育成も可能です。フィールドワークや実習は受講者の勤務状況も考慮して行われます。

CHECK

高度実践看護師(がん看護学・感染看護)に関する受験資格が取得可能

がん看護学・感染看護学の臨床・教育・研究分野でトップランナーを務めてきた本学教員を中心として、教育研究指導をします。1年次後期以降に開講される学外実習は、専門医療施設にて行います。修了後も専門看護師受験資格取得に向けた各種サポートを行い、万全の体制で専門看護師資格の取得を応援します。

過去の修士論文テーマ

- 「精神科看護経験がない精神科訪問看護師の困難」
- 「就学前の子どもを持つ看護師のワーク・ファミリー・コンフリクト(WFC)に関する研究」
- 「都市部の有料老人ホームとサービス付き高齢者住宅に暮らす高齢者の自己効力感とフレイルの変化との関連」
- 「がん患者の治療選択時における意思決定支援に及ぼす影響要因の探求」
- 「インクルーシブ教育の展開における特別支援学校に配置された理学療法士の有用性について」

授業 PICK UP

生活支援医療学特論 I・III
生活支援医療学演習

急性期看護領域で、ストレスフルな体験をする患者および家族の危機状況をアセスメントし、看護介入するための理論やモデルを理解し、倫理的課題について検討します。演習では、国内外の文献を購読してクリティークを行い、文献レビューやフィールド活動を通して各自の研究課題の明確化と研究方法の選択、さらに実施可能な研究計画書を作成します。



授業 PICK UP

がん看護学特論 I～V

日本人の死因の多くを占める「がん」について、医療や看護のこれまで歴史的背景、最新のがん治療の説明、緩和ケアや薬理学の知識等を事例に即して学んでいきます。総授業回数は70回以上、本学教員と現役の医師による講義で理解を深め、1年次後期以降に行われる学外実習にスムーズに対応できるようにしています。



在学生の声

Voice

小児理学療法に興味があり、臨床だけではなく研究の分野でも小児に関わっていきたく考えたため、大学院へ進学しました。研究と臨床の両立は大変ではありますが、講義を通して幅広い知識を得ることができ、研究分野においてはより理解を深めることができます。また、大学院には様々な年代・職業の人が在籍しており、日々刺激を受けます。この貴重な体験を活かし、今後も研究・臨床共により一層頑張りたいと考えています。



たけうち ゆうき
(竹内 祐樹さん/2022年4月入学/医療機関勤務)

修了生の声

Voice

勤務中に感じたジレンマや、指導にあたる中で感じた能力不足から進学を決めました。新型コロナウイルス感染症の流行や、自身の管理職という立場から、思うように時間がとれず研究が進まず悩みましたが、指導教員の先生方が親身になり指導して下さい、同じように悩む院生達の存在があり修了することができました。これまでの経験に大学院での学びが加わったことで、視野を広げることができたと実感しています。



なかがわ みな
(中川 未菜さん/2023年3月修了/医療機関勤務)